

問21 自由記述抜粋

【人権侵害や差別の経験】

- 大正、昭和初期生まれの人が、根強い差別意識、部落の問題意識があるのが残念。
- 職場等で、人権を否定されるような言動がまだある。(上司や同僚)
- 父は、管理職への昇進が決まり、毎日残業を命じられているようです。残業をさせる側に仕立て上げられているように思えます。人間的な休みは、どのような労働者にも必要で、こういったことが千曲市の中でも野放しになっています。母は職場で一番のベテランですが、派遣のままです。人間的・文化的な生き方が奪われています。生産性を高め、男女共に生きやすい社会をめざす必要があると思われます。老人ホーム、養護学校をみてください。日本人の人権意識などたかが知れています。本当に「大変重要」と考えられているのなら、行動で示してください。そうすれば市民として全面的に協力させたいと思います。
- 知人のことでよく聞いたことはありました。自分がそうだったら悲しくて、切なくなると思います。昔の時代が作ったことです。これからは徐々に薄れると思えます。
- 友人の奥様から結婚する前、相談がありました。家の両親が結婚に反対している理由がわからないとのことでしたが、私は同和の件を聞かされていたので、それは昔の話で今は差別はないことを伝え、結婚されました。
- 友人が結婚することになり、女性が対象者でした。当時は同和問題が根強くありました。家族が亡くなり今も残念に思っています。現在は、比較的表に出てこないように思いますが、話題を出すことにより、知らないことが表に出るように思います。
- 自分は親から話を聞いていましたが、自分は子どもたちに話すことはないので、若い人たちは同和についてあまり知らないのではと思います。子どもたちの結婚相手のことも調べたりはしませんでした。
- 30～40年前は、社会・職場での差別がひどかったと思います。結婚によって親子の縁を切るという人を何人か見てきましたが、一番家族が不幸です。平和な解決を望みます。
- 人権問題についてのアンケートですが、「人権」「差別」というのは、非常に難しい問題であり、差別はなくなることが一番だが、部落のことなど中途半端に学習することで、逆に受け継がれている気がして、知らなければ差別も何も思わない。部落のことを「歴史として学ぶこと」と「現在のこの地区のこと」と教えるのは別のこと。女性や子供に限らず、男性に対しても、高齢者に対しても人を人として大事にする。そのことをきちんと教育の中で学習すればいいと思う。今回、このようなアンケートを取ったが、そもそも今でも差別を(特に部落)受けているのですか?特別扱いすることが逆に差別じゃないですか?
- 自分が障害者となって、社会の受け皿が狭い事を痛感している。明日のこと、未来のことがとても不安だ。

●人は、自分より勉強ができたり、何事も上位的な人に嫉妬心をいだき、人を差別します。娘は、一見健康に見えるが、障害があり、小学校・中学と障害を言われ、登校拒否になりかけました。担任の先生が、他の人たちに有無を言わせずグイグイひっぱってくれたため、大事にいたらず、子ども心につらい毎日だったと、成人してから話してくれました。

●流産処置の際、男性医師から言われた言葉。「あなたは、産道を通して出産した事がないのだから、この痛みくらいがまんしなさい。」ただただショックでした。男に何がわかる？医者としての心意をうたがう出来事でした。何年経っても忘れられない。

●仕事上、海外より来た方、または親が海外出身の人がいますが、ほぼ「どちら出身？」と聞いている人がいます。聞かれている姿を見ると、何と声をかけて良いのか考える。自分たちと肌の色が違うだけで、気にする人が多く、口に出す人が多いことを感じた。出生に関して高齢の方ほど話題にするので、教育がとても大事と考えます。

●ないわけではないと思うが、はっきりと覚えていない。

●障がい者等の差別問題については、子に対する親の教育が重要であると思うが、今の若い世代の親は、教育できるレベルに達していないように思う。

●数え切れない程の差別、いじめ等は受けた。完全に解決することは自分も含め困難と思う。ただ、それをどう受けとめて、自分の人生に生かすかは、周囲・本人の努力、勉強、成長が必要。社会全体に「負け犬」のゆるやかな連帯があり、表面的な勝者に卑屈にならず、生きていけるゆとりと幅、奥行きが大切ではないかと思う。非常に小さな努力ではあるが・・・。

●ネットに全く根も葉もない事実無根のことを書かれたり、悪口を言われたりした。娘が会社で上司からあだ名で呼ばれたり、暴言を吐かれたりした。

●人事

●レディースDayなど女性に有利な設定が、男性に不利益に感じる。

●同和問題より学歴差別がある。

●自分の母親が父親に、女だからこうしなきゃいけないとか、上から目線でものを言われているのを見てきました。古い考えの人間だなと、いつも思っていました。

●子どもが障害があるので、他の人におもしろ半分で根ほり葉ほり色々聞かれたり、言われて、不快だったことがあります。

●人権の侵害というものが、どの程度のものを言うのかが、まず、私には分からない。子どもの頃、親の都合で転校が多く、東京から熊本の小学校に移った時、校庭に土がある事、山がある事に興味を示した私に「東京もんはこれだから」と言われたのをきっかけに、なにかにつけて「東京もんはむずかしいのか？」とずっと先生に言われました。また、別の時には、クラスでいじめを受けたと感じた事もありました。無視されたり、ヒソヒソ笑われたりもありました。でも、それで死にたいと思った事はありませんでした。死んだら終わりなので。

- 同和地区という言葉がまだあるということを知らなかった。学校で学習して以来、一度も身近にはなかった。そういう言葉を使うことはやめたほうがよい。
- 自分自身のこと。結婚に際して、相手の身辺調査を勝手に両親が行い、ひどい発言をしていた。人権侵害であることを伝えても「昔から当たり前に行われてきたことだ」という主張をされた。両親から部落差別や宗教差別を幼いころより聞かされて育ったので、一日も早くひどい発言をする人ははずかしいと思う社会になることを強く望む。
- 受け取り方で差別と思う事は、毎日の中に皆持っていると思うけれど、澄んだ気持ちで毎日正しく生活したいものだとつくづく思います。
- 50～60年前には確かにあったが、現在は全くといってよいぐらい、そういう問題はありません。
- ・友人が家族から恋人が部落だからと反対されていた。
 - ・子どもが学校の先生から「そんなこともできないのか」と言われていた。
 - ・前の職場で、年配の人から「あの子は部落に住んでいるから、お金とか気をつけて」と知り合いのことを言われた。
- 私は今 68 才です。子どもが学校に言っていたり、色々な役員などをやっていた時には、学校の講演や、講座などに行ったりしましたが、今ではそういう機会もなくなりました。でもそういったことが学習の機会になり、役に立っていると思います。若い人たちにしっかり伝えることは、大事だと思います。
- ・人の顔が気に入らないと言われたことがある。
 - ・「てめえ」「おめえ」と言われた。
 - ・職場での賃金格差。お気にいりの人には給料を上げ、そうでない人にはそのまま。
- マタハラ、時短勤務、育休に関して嫌な思いをした。
- 子どものころ（今から 60 年も昔のこと）近所のお嬢さんが部落の方と恋愛して、家族、親戚から破門されたと村中の評判になったと聞きましたが、今の世の中、何でも有りの時代だから、そんな古い考えの人は、ほんの一部しかいないと思います。
- 私が欧州へ旅行に行った時にアジア人という理由で白人から差別を受けた。アジア人であることに誇りを持っているので特に気にならなかった。個人が特定の人種に差別意識を持つことと、集団が特定の人物や個人に対して差別をすることは、全く性格の異なることだと思う。私が受けた差別は、前者であったので、差別した人を軽蔑して終わった。
- 職場での人権侵害を受けています。いわゆるブラック企業だと思う。休憩なし、トイレにも行かされず、8 時間以上働かされる。ストレスから体重増加→おもしろおかしく、話のネタにし、笑われる。母子家庭のため、休みや時間の制限があるが、聞いてもらえず、長時間労働をさせられている。母子家庭のため、がまんして働くしかないと思い、働いている。

●言わなければ分からないはず。結婚は本人同士なはず。好きだが結婚できないなど、なくなる未来を望む。学校で教育しなければ、知人は幸せになれたのだろうか。

●女性の人権問題。男は仕事、女は家庭という考え←仕事で採用されたらやめさせる！と結婚の時に言われたこと。

子どもが生まれた時、女の子だったら「がっかり」と義父に言われたこと。人権侵害だと思った。これはずーっと忘れない！！家庭の中でも「嫁」として差別的な発言を受けたことあり。←立場が弱いのか。今でもそういうことは少なくない・・・。”

いじめにあったことがあります。

【市への要望意見】

- 産婦人科のある病院を
- 同和教育は、さらりと行い、昔のこととして子どもたちに話したほうが良い。現に子どもたちは、千葉の習志野で育ちましたが、昔のこととして話されただけだったので、長野に来て初めて今の差別を知ったと言っています。
- 同和問題を理解したうえで、自分は差別をしないこと。
- 11月同和月間なんていない。知らない人までも知り、差別を行うこともある。ようです。
- 部落差別をはじめとする人権問題は自分のものとして位置づけるよう、差別教育の徹底と行政の積極的な施策対応が必要だ。以前からみれば、教育・行政機関の取り組みが不十分だ。やっていることが義務的、形式的になっていないか。
- 人権に関する教育学習は、幼児、小学生から行うべきで、成人してからの教育活動は効果が少ないと思う。
- 人権問題等について正しく知る、理解する必要があると思う。
勉強会、特にお年寄りを招いてはいかがでしょうか。「寝ている子を起こしても」やりましょう。
- 偏見・差別が無くなるように、専門家の意見を聴き、アドバイスを受け、行政がきめ細やかな対応をすると良いと思う。
- 人権、人権と言う人ほど自分自身を難しくしていると思います。おごることなく、こつこつ努力する人が成功すると思います。同和地区の人、身障者でも健常者よりも高学歴の人、運動能力のある人をみています。立派な企業に入って高収入を得ています。わずかですが頑張りましょう。
- 自分だけが主張せず、他の人のこともよく聞くことが大事。人間性を見るのが1番。気の合う人合わない人はあるはず。気持ちを考えるのが1番。思い込みはダメ。
大人がまず人間性を磨くことで、子どもたち（未来を担う）も心豊かに育っていくのだと思う。
- 学校で子ども対象に同和教育を行なっても意味ないと思います。保護者、地域一般の人たちに周知させることが行政の役割だと思います。
- 同和という言葉は、ひかえた方がよい。
- 人権の尊重並びに男女共同参画の推進は急務であると考えます。今や老若男女を問わず、市民は疲弊しています。まずは、行政の職員の皆様の待遇や行動で示すことが大切なのではないでしょうか。派遣の職員など使いつぶしていませんか？女性はチーフの立場にいますか？旧態依然とした日本の社会の中で、さらに地方は遅れており、今後の世界情勢の中では相手にされず、どんどん力も市民もいなくなるでしょう。その前に行政が手本を見せるべきです。このようなりサーチが税金のムダづかい、「やっていますアピール」で終わらないことを切に願っています。

- 人権に係る調査と表記される割には、同和地区とか部落差別のないように比重が多くおかれている印象を受けました。人権とは何かをもっと考える調査であって欲しいと感じました。
- 差別とは、どの様な差別をされているのかも具体的に見た事も聞いた事も最近はありません。このような調査をしてもどの様な事がされるのかも知る事もないと思います。個人の考え方が一番問題だと思います。
- 現在は、あまり重視していないのではないかと。
- 私は20代にこの本読んで友人に渡され、4冊を読みました。映画にもなりました。見ました。どうなんだろう。年代により、考え方が変化されるけど、やはり、生きていくからには、学ぶことは必要と考えます。
- 同和問題は、教育で扱ってしまうと問題そのものを残してしまいます。私は、他県から来ましたが、同和問題そのものを聞いたことがなく、教育することによって地域に問題を残してしまうと思います。
- 部落差別は、小学校の授業で初めて知りました。意味のない差別だという理由もその授業で知りましたが、あえて授業でやらなければ知らないで済んだのでは？とも思いますが、難しいところですね。
- 人権は大切にされるべきだと思います。貧困やいじめ、性差別、外国人差別、障害者、認知症の人の差別にもっと目をむけてほしいです。調査も同和問題に偏重していないでしょうか。
- 母子家庭、シングルマザー等、弱い立場の人たちに対する人権侵害・差別の解消のため、千曲市の支援をお願いしたい。
- 「部落」ということで、行政もいろいろと支援をしていた時期がありました。（当時は強く意見が出ていました）一般と同じように扱うことが大切だと思います。
- 都会に出た若者が帰ってきて、住みやすい千曲市が良いです。自分の家庭が円満であれば、差別は少なくなると思います。自然災害が少なく、東京にも近いことをもっとアピールして、若い人たちが住んでほしいです。
- がんばってください。
- 誰も生まれてくる所を選ばません。平和な世の中になることを望みます。良心を正しく持てる社会教育をお願いします。
- 「人権」ってそもそも何なのか、ということも教育してほしい。差別があることを学ぶより、差別しない、させない教育をして、子どもたちが寛容に人を受け入れることのできる未来をめざしてください。そういう子どもたちが増えれば、大人も変わると思います。
- 八幡神社の火災は非常に残念です。千曲市の方はそう思っている。

- 30 数年前、更埴市へ引っ越してきた時は、庁舎の前に大きな看板があり、前の住居の地区には、部落差別とかは話題にも出ない所でした。更埴市は、一人一人を大切にす
る所だと嬉しかったです。今、私たちは問題が起きなければ忘れていた事ですが、大切
な事は、看板の言葉からも思いおこす必要があると思います。
- 人は、誰にも2面がある。複雑でどうしようもないが、いつも正の方がたくさんある
心と行動の己れでありたいと努力する。
- 難しいことですが、多くの人が人権や差別について知ることが必要だと思います。
そもそも、いじめも差別も人より優位に立ちたいと思う心理から発していて、他人を思
いやる心の欠如が問題である。他人を慮ることができなければ差別はなくなる。行政
も法律も他人を慮らないことによって差別を行なった人間に対して、規制したり罰し
たりできても、その人も心（慮らない心）を罰することはできない。大事なものは、行政・
法律・当事者の努力ではなく、他人を思いやる心を育てる努力であると思う。
- 差別は、自分より下に位置する者の存在が自分の満足と感ぜられることもある。
私の親も主人の親も明治生まれの母親は、人のために何かしてあげる精神でした。誰も
がいやがる人とお茶を飲んで話したり、何かあげたり、献身的に接していました。いつ
しか、私もこの年になると親と同じような人間となり、差別をつけない人間関係に努め
ています。
- 千曲市において差別の実態（あるのかないのか）が分からないので何とも言えないが、
「人権尊重」「差別」という言葉を前面に出さない方法がないものかと思う。
- 人権が侵害されたと思ったら、気軽に相談できる場が近所にあるような市になってほ
しいです。
- 老人の人権に力を入れてほしい。
- 教育、国際化受け入れが必要と感ぜます。
- 引き続き行政による取り組みをしていくとともに、市民の意識向上が必要。（地区での
人権研修が開催されても地区の役員以外はほとんど参加しない現状がある。）
- 子ども、高齢者、障害者が住みやすい町になってほしい。
- 人権とは、人間の平等と基本的権利であり、いかなる「差別」はあってはならない。
公的団体は常に情報を密にし、絶無に向けて努力して欲しい。いくらでも協力したい。
- 一般社会の中の色々な組織の役職就任に対し、女性ありきの傾向があるが、その人の
人格、能力、一般常識の有無等々を考慮して決めたほうが良いと思う。
- 差別は誰がしてるのか？なぜするか？なぜなくなるのか？自分の周りにいない
のでわかりにくいけれども世の中にあるのは間違いない。差別する側の問題がかなり大
きい原因だと思つてます。差別する側が差別しなければならぬ原因をなくすのがいい
のではないかと。差別する人は自分の立場を守るためとか、いろいろある理由がはつき
りすればいいのではないかと・・・。

- 差別というと同和だけを表面的に扱うことに少し懸念がある。どんなささやかな事にも差別、いじめ、その他の負の面はあるので、行政が扱うときはどうしても表面的正義感になる。表裏両面のなかで強く押し付けることでなく、よりベターな道を探る事は大切な？と思います。
- 社会はもちろん企業、会社でも各個人に対して、例えば、女性・男性等に対し差別発言、人権侵害的発言を重要視すべき。軽率な発言をする人が、まだ多くいる中で、個々にもっと考えて接するべきと思う。
- 人権と差別を言い方を新しく変えるべきです。
- 近隣の声かけ、地域の人たちが気持ちよく生活できるよう、あいさつ等進んで行く。
- 差別は市で何とかしようと思ってもできなくて、一人一人の問題だと思うので、やっぱり小学生のときから学ぶことが大事だと思います。講演会とかだと飽きてしまって寝てしまうとか、聞かないなどの経験が私にもあるので、授業でテキストを使って、楽しくというのはおかしいですが、分かりやすく学んだ方がいいと思いました。
- 私のまわりにそういう人がいても普通につきあっていたいと思います。
- 逆差別にならないよう、注意が必要であると思う。過大な保護教育はかえって差別になると思う。
- 基本的人権の問題は、いつどんな所でも起こりうる課題です。我々大人がその範を示さなければならぬと思う。また、子どもたちに基本となる芯の部分を持ってもらい、いついかなる時でも自分で考え、行動できる心を持ってもらいたいと願います。
- 身近ではあまり感じていないので、ピンとこないですが、普段の生活の中で気づいていない場合もあります。知る事も大切だと思います。
- アンケートをすることによってまた差別問題を掘り起こしている。20代の子どもたちは、同和地区の差別をあまり知らない。私たち親でさえ、そんな話を家庭でしない。部落差別より職業差別、学歴差別を考えてほしい。
- 机上の論争よりもっと現場に赴いて、現場の声や現状をみて聞いて欲しい。
- 様々な差別があると思うが、実情がわからない。根本的には、心の問題だと思う。将来を担う子どもたちがまっすぐに育つよう、ゆとりのある社会や環境を大人が作るべきと思う。その中で親から子へ、大人から子どもへ伝えるべきことをきちんと伝えていくことが大切ではないでしょうか。
- 同和問題教育のあり方で、学校・職場・地域における強制的な啓蒙活動には無意味なものがあり、忘れかけている者、知らないでいる者を呼び起こす一面にも継って行く様な気がする。
- 40代、50代の男性が、差別意識を持っていると思います。古い考えの人が今の時代について行っていない。若者の意識を変えるより、年代が上の人ほどもっと考えてほしい。
- 学校教育が重要！

- 行政も静かに見守ることで自然になくなると思います。生まれてくる子どもは何も知りません。いやな事、良い事、大人が教えることです。
- 人間誰しもが自分と違った事があると差別や偏見をもっていると思います。自分も子どもが障害で生まれてくるまで自分と関係ない（人ごと）でした。だから差別したり、悪口を言ったり、いじめたり、人権だって無視できます。（障害者や外国の方、男女差別）みんながひとりひとり気づかないと無理でしょう。皆自分の立場にならないとわからない事もあると思います。たとえば、足が不自由な人の体験ができる（目が見えない、話が通じない）等、そういった体験会みたいのがあれば、行く人は少なそうですが、いいんじゃないかと思いました。部落差別は、今のお年寄りがいけないと思います。若い人たちが「そんなの関係ないよ」と言っていけば、なくなっていく様な気がします……。あまり言ってしまうと逆に広まってしまい悪化しそうですが……。
- 私が高校のときに、社会科の先生が同和問題について教えていただきました。それまではよく知りませんでしたが、その勉強がきっかけで同和問題が、いまだ社会に根強く残っていることを知りました。私は、その時受けた授業のことはいまだに忘れていません。小学生のうちからの教育が重要ではと考えます。
- 部落差別には、あまり行政がかかわるべきではないと思います。自然の流れと月日が解決していくと思います。すべては、人としての思いやりと尊敬の心が大切ですね。
- 同和地区の概念をなくすことで昔話として「昔あった」「昔あったらしい」との話になる。そこに住んでいる人が判らなくなる事で、人間への同和差別は自然と消えていくのではないか。そのためには、住んでいる人の移住（転居）が必要になってしまう。しかし、この考えを持つことが、差別意識を持っていることになると言われるだろう。従って話題にすることをしない事が良いのかもしれない。
- 今、この問題は社会で大きく取り上げられています。私自身、こういう立場にいる子どもには何の罪もない事といつも感じていますが、私の子どもたちがいざ結婚相手となると、どうしても大目に見る事ができません。
- 同和教育も大切だと思いますが、最近特に増えた子供同士の死に至るようないじめについて、皆さんの知恵を出し合いたいと思います。
- 学校で教えることは、そもそも差別教育だと思います。道徳の授業をもうけ、いじめ、差別した者は神様が見ている、自分に返ってくると教えた方が、子どもには受け入れやすく、いじわるをしなくなるのではないかと思います。
- 差別のない社会をつくりましょう。
- たくさんの高齢者、障害者が地域で頑張って生活をしている。千曲市は、もっともっと法律ついてや何が”差別”なのかを知る必要がある人間がたくさんいて残念。千曲市の小学校では、あまり部落差別について勉強する機会がないことに驚いている。差別、いじめについての学習をきちんとするべきであると思う。

- 部落問題でも良くないことだ、解決すべきだと思っけていても、いざ身近な結婚問題などでは迷ってしまうことは明白であり、大方の意向（きれいごとには徹しなければ）だと思ふ。その矛盾はアンケートの中にも出てきてしまっている。対処するのは難しい問題であるが、人間教育を行なつて、人の生きる道をしっかりと教えていくことが大切だと思ふ。高度な哲学や宗教に支えられることになるだろうが、千曲市の人間を心の底から改革しないと次世代の人々の発想も変わらないと思ふ。その意味で安易な社会教育はしないことだと思ふ。体験談や歴史の話をしてても難しいでしょう。差別に興味を持たない、いけないことと思ふ人間を作るための教育をしっかりと考えるための方策は前述してあります。人間は今こそ一段ステップアップするべきでしょう。そんな良いお話をしてくださる講師を探すのもほんのスタートだと思ふ。
- 毎日のあいさつから始まりますと思ふますが、なかなか自分ではしようとしてますが、お互い声を聞いただけで本当に気持ち良いですが、何とか運動を続けていけたらよいと思ふ。
- 自分の身近な問題であることを自覚し、あらゆる差別をなくしていきたい。明るく住みよい市になるよう、人権を尊重していくことが大切。人権を尊重する思いやりのある千曲市を期待しています。子ども、高齢者、女性、外国の人、皆幸せになってもらいたいと思ふ。
- 各役所等に各問題に特化した課などを設置→そして国と連携する。フリーダイヤル等での相談受付とか。私にとって人権の問題というのは幅が広すぎて、また、普段身近に感じない。生きていくうえで大事な事なのに、当事者にならないときちんと考えないと思ふ。まずはその考え自体をなくせれば良いが、かといって、セミナー等では考えないと思ふ。学校の授業などで強制的に学ばせてくれた方がありがたかった、と思ふ。道徳の授業では、1~2回だけだった。
- 差別のない世界を作るためには、同和問題ばかりに特化せずに、もっと様々な人に対して、親切ていねいに接するよう、個々が思えるような教育が必要だと考える。身近に困っている人がいたら、フォローできるような人になる事、自分の事ばかりにならないようにする事、各々で気づくことでは？
- 同和問題だけでなく、「人の口には戸を立てられない」ということわざ通り、世間一般は、命ある限り、一生懸命生きているのに「面白がつて陰口に同調しない」全市民が一貫となつて信念を持つてもらいたい。
- 誰でも基本的人権が尊重され、安心して生活できる社会に更に近づくことを望みます。特に高齢化社会にむけて介護で孤立する人が出ないように、行政にも期待します。
- 同和教育をするうえで、歴史上差別があつたことは、知つたほうが良いが、必要以上に扱うと良くないと思ふ。今以上の扱いは必要ないと思ふ。
- 今の子どもたちは差別に関心がない。そつとしておいたら自然に無くなると思ふ。また、そうあつて欲しい。罪のない子どもたちのために皆が幸せになつて欲しい。

- 娘が中学生の時、同級生をいじめたと先生方にレッテルを貼られた事があります。うちの場合、部活の先生がとても良い先生で、娘の話聞き、理解してくれたおかげで誤解はとけましたが、その時、娘に厳しい言葉をかけた先生方は、誰ひとり娘に謝ることなく異動していきました。とても悲しかった事、今でも覚えています。とても難しい問題だと思いますが、少しでも良い千曲市になる事願っています。
- 一人一人が差別について考えていった方が良いと思いました。人権を尊重しない発言をした人、場合に、ややいやな”かお”をする人が増えてきたように思います。少しずつなのかもしれませんが、明るい千曲市へ向かっていることに喜んでいきます。
- 区などで1年に1度は話があり出席しますが、またかという感があります。今はあまり気にしないし、静かにしておけばとも思う。
- 近年、皆平等の社会において、未だに「同和」「差別」の問題を提起するのは如何なものかと思います。
- 無知はいけないと思うが、「同和地区」等出さなければ、しなくて良かったかもしれない差別がうまれてしまうこともあると思う。正しい知識を持つことが大事だと思う。30代の自分でも知らないことがたくさんある。内容によってかもしれないが、差別をしていた年代から聞かなければ、若い人がむやみに差別をすることはしないのかもしれない。正しい知識を市民が持つことが必要かと思う。
- 明るい千曲市の実現には、高いレベルの教育が必要と考えるが、そのための投資が不十分ではないか。未だに小学校がブラウン管のテレビである一方、青木村等ではICT機器を活用した教育。そんな状態で人権教育なんて、その前にやるべきことがある。今の子どもたちが差別の事について学んでも、どこまで理解できているか疑問。地域での取り組みも必要。
- 人権教育が大切。
- 学校での差別は時間（とき）が解決する事もあります。（経験）
- いじめなど、年々深刻になりつつあります。いじめや体罰に負けない対処方法を考えてみましょう。たやすく自殺してしまうのは、こわい話です。死ぬ勇気があったら何でもできそうなのに・・・。
- わすれかけている人権問題には、今後話し合うことはない！聞いたことがない！もどさないでほしい！みんなが友だ！
- 千曲市で差別があると聞いたことがない。
- 千曲市で暮らしている中で、差別的な経験をしたことがないので、千曲市は人権が尊重されている市であると思う。ただ、今後も学生に対して、部落差別が過去にあったことを教育していくべきだと思う。
- 子どものころ、親から差別（部落）の話聞いた記憶がある。大人として、差別は恥ずべき行為だと思っている。人として、親として・・・。

- 部落差別に限定せず、広く考えていく方がよい。
- 私の孫は 30 才になりますが、同和の事はあまりくわしく知りませんでした。あまり学校でも教育していないようですね。そっとしておけば、なくす事ができるのかもしれないですね。
- たばこを吸う男性の中には、公民館等の公の施設の中でも平気で吸っている人がいまだにいます。TV等で分煙化が進んでいるかのように言っていますが、小さい地区では、いまだに分煙化できていません。当たり前のように会議中もたばこを吸われると不快です。女性たちの中では不満が出ますが、男性にはうまく伝わりません。モラルをもっていただけたらありがたいです。ネコの首スズをつける勇気がなくてすみません。(ネズミ年の女より)
- 小学生の頃からの人権教育が必要。
- インターネットによる人権侵害はなんらかの対策はしなければと思います。
- 昔ながらの考え方を変えていくことは難しいが、一人一人の努力が必要だと思う。
- やさしさや人を思いやる心を小学校でもっとしっかり教えることが大切です。
- 差別をされた人がどれだけ心にダメージを受けるか、理解する事が必要ではないかと思う。(それ以前に、皆、人として同じ、ということを理解することが必要かもしれない)
- 人権教育は重要であり、一人一人が人権感覚を持つよう努力すべきである。
- ・なぜ差別されるようになったのか。(同和など) 歴史教育を積極的に行い、無意味な差別である事を周知させ、差別をなくしていく。
 - ・一人一人が自分とは異なる環境や個性を持っている事を知る。(学校、家庭教育) 多様性を認め、尊重する事が人権を守ることになると思う。
- 実現のために。人権教育の集会で、また、見やすい文章の冊子で行なうべきだ。
- このようなアンケートに答えることによって、人権や差別に関することをもっと意識していこうという気持ちになりました。
- 部落差別については、小学生・中学生時代の授業で受けたことを鮮明に記憶している。ただ、子ども心に、初めて知った事実を親に問うこともしなかった。子どもながらに自分の中でとどめておきたい、そう思ったのかもしれない。その頃の自分と同年くらいになる我が子にも問われたことが無い。同じ思いなのか？それとも昔ほど授業で扱っていないのか？同和問題は家庭での共有がとても大事な事。親が子どもにしっかりと思いを伝える事、これにつきると思います。